琉球大学学術リポジトリ

はじめに

メタデータ	言語:
	出版者: 琉球大学大学教育センター
	公開日: 2018-07-17
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 西本, 裕輝, Nishimoto, Hiroki
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/41674

はじめに

西本裕輝（大学教育センター）

①必要とされる調査実施によるエビデンス作り

現在、大学は評価の嵐にさらされていると言ってよい。大学評価・学位授与機構等が実施する第三者評価である法人評価、認証評価がその代表であるが、本学においてはそれらに伴って、現況調査、授業評価、教員の個人業績評価など、多くの評価が動いている。多くの調査が実施され、多くの報告書が作成されている。特に本学は、20 年度にすべての国立大学法人に義務づけられている「法人評価」、続けて 21 年度に「認証評価」を受審することとなっており、これからいよいよ評価の本番を迎えることになる。

評価の際、求められるのがエビデンス（根拠資料）である。評価報告書を作成する際には、ただ単に事実を記述するだけでなく、証拠（具体的には「表」や「グラフ」等）を添えて提出しなければならないのである。

例えば、「卒業生の大学教育に対する満足度」が評価項目にあるが、それについて評価報告書に記述する際、機構側がエビデンスとして求めているのは、卒業生調査を実施したうえでの分析結果である。卒業生のうち何%が満足し、何%が不満を持っているが、数値で示すことが求められているのである。

また、「大学の教育理念について教職員・学生に対してどの程度周知されているか」「シラバスはどの程度利用されているか」「オフィス・アワーはどの程度の学生が利用しているか」「卒業生を受け入れている企業等による本学卒業生の評判はどうか」などの評価項目についても、機構側は、大学が企業調査、教員調査、在学生調査、卒業生調査等を実施し、数値を把握するよう求めている。

つまりエビデンスを提出するためには、多くの調査が必要であり、多くの統計分析結果が必要であるということである。このように評価の際には、もちろん統計分析結果だけがエビデンスとなりうるわけではないが、説得力のあるデータを示すことが求められている。

②分析結果を各学部で有効利用

本学においても、こうした評価に対応するため、学生部や大学教育センターが中心となって、これまで多くの調査を実施してきた。在学生を対象とした学生生活実態調査、学生支援アンケート、卒業生調査、企業調査等である。今回は特集として、こうした調査の中から比較的新しい 19 年度に実施した調査の結果を示しておきたい。具体的には、「卒業生調査」と「教員調査」の分析結果を報告したい。

卒業生調査は、各学部・関係諸センター選出委員や学生部担当課長等により構成された「卒業生アンケート調査等検討ワーキンググループ」により「琉球大学卒業生アンケート調査」は実施された（平成 19 年 11 月調査票発送）。本報告で扱う調査対象者は平成 5, 10, 15 年度学部卒業生の全員（4,234 名）であり、「琉球大学での学習・研究等について振り返って」もらうことを求めている。606 名より回答があり、回収率は 14.3 %であった（なお，本報告では扱わないが調査自体は大学院修了者も対象としており、全体としては 4,930 名に調査票を配布し、732 名から回答を得ており，回収率は 14.8 %となっている）。

質問項目は、①本学で受けた教育全般の効果や満足度、②共通教育（一般教育）の効果や学習取組みの状況、③専門教育に関する部局別設問、から構成されている.

教員調査は、「法人評価・認証評価に向けての教員調査」として、大学教育センターにより 2007 年 11 月に実施された。「大学評価に対応するためのデータ収集を行う」ことを目的としている。本学教員 872 名を対象とし、392 名より回答があり、回収率は 45.0 %となった.

質問項目は、①本学の基本理念や育成する人材像の認知状況、②学生の能力に対する評価、③オフィスアワーやシラバスの状況、④教員表彰制度やファカルティ・ディベロップメントに対する評価等から構成されている。

ここで示す調査結果は、各学部等において、法人評価や認証評価の際に必ず役立つものである。特に各学部の評価担当の委員の方々には本結果を大いに評価に利用していただきたい。

よって教員調査では、学部ごとの特徴がわかるような分析を試みたい。なお、卒業生調査については、各学部担当者が別の場で分析を試みているので、ここでは全体的傾向を中心に報告したい。

なお、本件データに関しては全学に提供が可能である。本関する問い合わせ先は、学生部教務課第一係（kykyd1k@to.jim.u-ryukyu.ac.jp、内線 8848）、大学教育センター西本（hirokin@lab.u-ryukyu.ac.jp、内線 8309）までお願いしたい。

③章の構成について

次に章構成であるが、以下のように３部５章からなる。

第１部　卒業生調査の分析結果
　第１章　卒業生調査から見た琉球大学の共通教育（天野）
　第２章　卒業生調査から見た琉球大学の学士課程教育（西本）
第２部　教員調査の分析結果～学部別分析
　第３章　教員調査から見た大学の理念の理解に関する分析（西本）
　第４章　教員調査から見たＦＤに関する分析（天野）
　第５章　教員調査から見たプロフェッサー・オブ・ザ・イヤーの評価（西本）

第１部では、卒業生調査についてふれる。第１章として天野が共通教育について、第２章として西本が学士課程教育全体についてふれる。

第２部では、教員調査についてふれる。第３章として西本が大学の理念について、中期計画等に挙げられている基本理念、大学像などについて分析する。第４章では天野が、ＦＤの観点から、シラバス、オフィスアワーについて分析する。第５章では西本が、４回目を迎えるプロフェッサー・オブ・ザ・イヤーについて検証する。